

平成30年度 社会科実践・研究計画

部 員	○石井 史知, 鈴木 聡
-----	--------------

研究テーマ

社会的事象の「見方・考え方」を働かせ、
社会と自分とのつながりを見いだす子どもの育成

1 研究テーマについて

昨年度までの実践・研究により、社会的事象の意味や特色など、概念にかかわる知識を獲得するために、複数の視点から社会的事象の意味について考察する場の工夫が有効であること、また、社会的事象の特色や相互の関連を考察するために、資料の提示の工夫が効果的であることが確かめられた。一方、社会的事象を認識するための段階である「事実認識—関係認識—意味認識」について考察する活動を効果的に位置付けた単元構成に課題が残った。社会的事象を段階的に認識し、概念にかかわる知識を獲得するためには社会的事象の「見方・考え方」を働かせることが重要であり、そのためにはどのような手立てが有効であるのか明らかにしていく。

研究主題の「自律した学習者」を社会科では、社会的事象の「見方・考え方」を自覚的に用い、社会的事象の意味や特色、相互の関連を考えたり、学習したことを社会生活に活かそうとしたりする姿をとらえる。また、「学びをつなぐ」を、既習内容や生活経験を新たな学習に活かしたり、「対話」により共に学ぶ仲間の知識や経験と結び付けたりしながら学習問題を追究・解決することを通して、社会的事象の意味や特色など概念にかかわる知識を獲得したり、自分の考えを再構築したりしていくことをとらえる。

そこで、これらを踏まえ、今年度の研究テーマを、「社会的事象の『見方・考え方』を働かせ、社会と自分とのつながりを見いだす子どもの育成」とした。「社会的事象の『見方・考え方』を働かせ」とは、具体化された着目する視点や追究の方法を自覚的に用いて、学習問題を追究したり解決したりすることである。また、「社会と自分とのつながりを見いだす」とは、地域社会の一員、将来を担う国民としての自覚をもち、社会へのかかわり方を選択・判断し、よりよい社会を構想することである。

社会科における「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」を次のようにとらえる。

- ・ 社会的事象の「見方・考え方」を自覚的に用いながら、社会的事象の意味や特色、相互の関連を考えている姿
- ・ 「対話」を通して、多様な視点や立場から社会的事象をとらえ、自分自身の考えを深めている姿
- ・ 地域社会の一員、将来を担う国民としての自覚をもち、学習したことを社会生活に活かそうとしている姿

2 研究の重点

(1) 地理的環境と人々の生活，歴史と人々の生活，現代社会の仕組みや働きと人々の生活の内容の系統を踏まえた単元構成の工夫

生活科からのつながりも含め，地理的環境と人々の生活，歴史と人々の生活，現代社会の仕組みや働きと人々の生活の系統を踏まえた単元構成を工夫する。そのために，単元の始めにその学習とつながる既習内容を想起する場や，終末に単元を通した学習内容を省察し，自分の考えを再構築する場を重視する。また，各単元における「事実認識—関係認識—意味認識」の段階を整理した上で，着目する社会的事象の配列を工夫し，意味や特色，相互の関連などを考える活動を効果的に位置付ける。

(2) 社会的事象の「見方・考え方」を働かせ，社会的事象の意味や特色，相互の関連を考える場の充実

位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目する見方，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりする考え方を自覚的に用いる場を設定する。また，多様な視点や立場から社会的事象をとらえ，社会的事象の意味や特色，相互の関連を考察することができるように，「対話」を効果的に位置付ける。さらに，考察したことをもとに，地域社会や将来を担う国民の一員として社会のかかわり方を選択・判断する場を重視し，生活経験と学習内容を往還する学びを目指す。

3 研究・研修計画

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	・教科部会 ・附属中学校公開研究協議会(6/1) ・附属小学校公開研究協議会(6/8) (石井：3 A，鈴木：4 C) ・初等社会科講義①②	・実践・研究計画の立案 ・附属中学校との共同実践・研究 ・授業を通して重点事項の検証 ・大学生への講義
2 学期	・研究紀要原稿執筆 ・部内研修(石井：3 A，鈴木：4 C)	・実践・研究のまとめ ・授業力向上，授業提案
3 学期	・秋田大学との連携 ・教科部会	・社会科教育研究室の研究会 ・子どもの見取り，子ども理解 ・実践・研究の方向性の確認

通年：年間指導計画及び資質・能力表の加除修正

○参考引用文献 加藤公明，2007，『考える日本史授業〈3〉平和と民主社会の担い手を育てる歴史教育』，地歴社

加藤公明・和田悠，2012，『新しい歴史教育のパラダイムを拓く—徹底分析!加藤公明「考える日本史」授業』，地歴社